

**第3回**  
**愛知県沿岸部における津波・高潮対策検討会**  
**検討会資料**

**平成24年10月31日**

**愛知県**

# 1. 検討会の設置趣旨

## 検討会設置の経緯

- ① **平成21年10月に愛知県沿岸に来襲した台風18号**は伊勢湾台風に匹敵する高潮となり、愛知県内では三河湾を中心に大きな被害となった。
- ② 近年、地球温暖化に伴う海面上昇や台風の強大化が懸念される中、愛知県における**高潮への防災・減災対策について検討を進めていた**。
- ③ 平成23年3月に**東日本大震災**という未曾有の大災害が発生し、国等の検討の中で、今後の津波対策について、**防護レベル**、**減災レベル**の2つの設定外力による対応が示された。



## 愛知県沿岸部における津波・高潮対策検討会（平成23年11月2日設置）

（目的）

### 第1条

愛知県の沿岸部における防護対策のあり方を踏まえ、海岸保全施設についての総合的な評価を行い、今後の施設整備等の方針を検討するため、「愛知県沿岸部における津波・高潮対策検討会」（以下「検討会」）を設置する。

（検討内容）

### 第2条

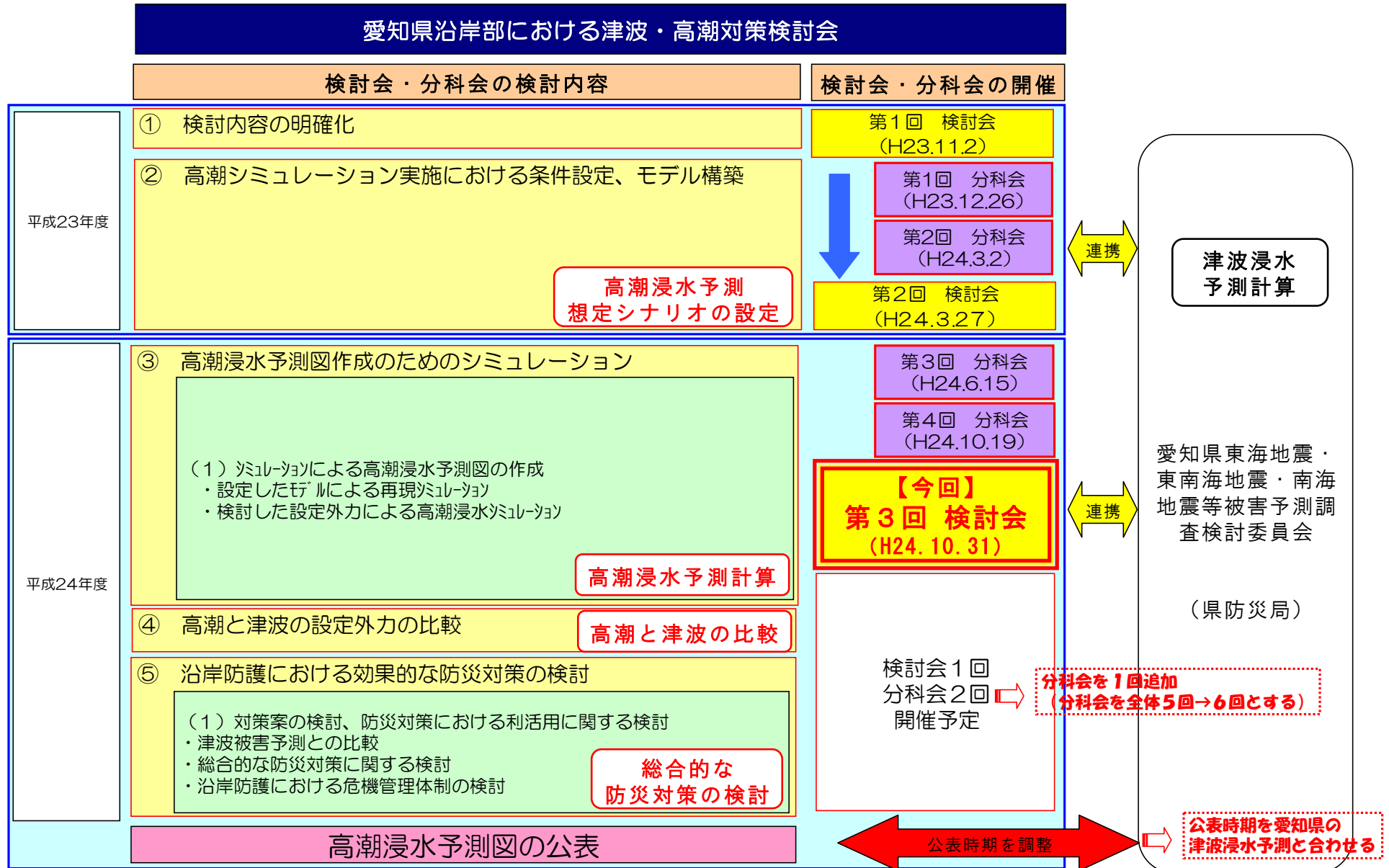
愛知県沿岸部について、次の事項を調査検討する。

- （1）愛知県沿岸部の**高潮の特徴を踏まえた浸水予測**
- （2）愛知県沿岸部の**津波・高潮を踏まえた、今後の総合的な防災対策（ハード整備、ソフト対策）**
- （3）その他、この検討会の目的遂行のために必要な事項

「愛知県沿岸部における津波・高潮対策検討会」設置要綱より抜粋

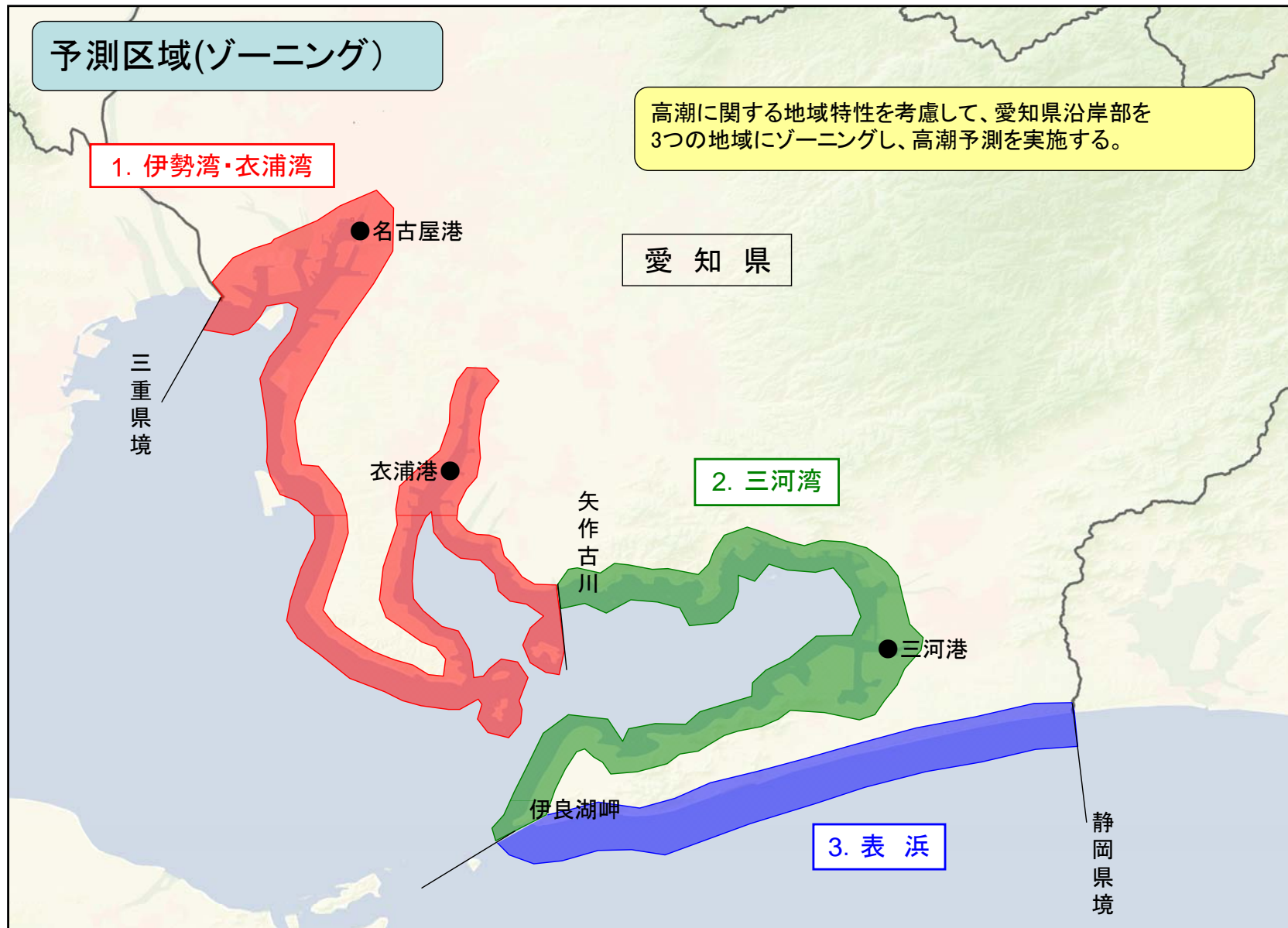
## 2. 検討会と分科会のスケジュールの変更について

### ○「愛知県沿岸部における津波・高潮対策検討会」の進め方



### 3. 予測区域（ゾーニング）と設定台風（1）

#### 【第2回検討会承認事項】



# 3. 予測区域（ゾーニング）と設定台風（2）

## 【第2回検討会承認事項】

### ＜高潮浸水予測の想定シナリオ＞

・高潮に対する「**防護レベル**」及び「**減災レベル**」の検討を、6ケースの想定シナリオにより実施する。

「**防護レベル**」：発生頻度の高い高潮に対しては、できるだけ構造物で人命・財産を守りきる「防護」を目指す。

「**減災レベル**」：発生頻度は極めて低い影響が甚大な最大クラスの高潮に対しては、最低限人命を守るという目標のもとに被害をできるだけ小さくする「減災」を目指す。

### ○高潮浸水予測の想定シナリオ

	CASE①	CASE②	CASE③	CASE④	CASE⑤	CASE⑥	備考
シナリオ	台風期の <b>平均的な満潮時</b> に、伊勢湾台風級の <b>巨大台風</b> が来襲した場合を想定	<b>大潮の満潮時</b> に、伊勢湾台風級の <b>巨大台風</b> が来襲した場合を想定	地球温暖化で現在よりも平均海面水位が上昇した状況下（ <b>概ね50年後</b> ）で、台風期の <b>平均的な満潮時</b> に、伊勢湾台風級の <b>巨大台風</b> が来襲した場合を想定	地球温暖化で現在よりも平均海面水位が上昇した状況下（ <b>概ね100年後</b> ）で、台風期の <b>平均的な満潮時</b> に、伊勢湾台風級の <b>巨大台風</b> が来襲した場合を想定	台風期の <b>平均的な満潮時</b> に、室戸台風級の <b>超巨大台風</b> が来襲した場合を想定	地球温暖化で現在よりも平均海面水位が上昇した状況下（ <b>概ね100年後</b> ）で、台風期の <b>平均的な満潮時</b> に、室戸台風級の <b>超巨大台風</b> が来襲した場合を想定	
想定台風規模	伊勢湾台風	伊勢湾台風	伊勢湾台風	伊勢湾台風	室戸台風級	室戸台風級	当該地域の既往最大台風 伊勢湾台風(940hPa) 日本に上陸した既往最大台風 室戸台風(911hPa)級
想定台風コース	台風実績コース	台風実績コース	台風実績コース	台風実績コース	最悪コース	最悪コース	各ゾーンにおいて 最も潮位偏差が高くなるコース
計算潮位	台風期平均満潮位				台風期平均満潮位		台風期(7月～10月)の平均満潮位 (海岸堤防の現行の設計水準)
		朔望平均満潮位					朔(新月)および望(満月)の日から5日以内に現れる各月の最高満潮面の平均値
検討目的	「 <b>防護レベル</b> 」の検討 (ハード整備)				「 <b>減災レベル</b> 」の検討 (ハード整備 + ソフト対策)		
	当面の整備レベル		中長期的整備レベル		短期的想定レベル	長期的想定レベル	

※想定台風規模については、実績の台風規模から次の2つの台風を対象とする。

・「**防護レベル**」の検討にあたっては、当該地域の既往最大台風である「伊勢湾台風」を想定台風として設定する。

・「**減災レベル**」の検討にあたっては、日本に上陸した既往最大台風である「室戸台風」級を想定台風として設定する。

※愛知県沿岸部については、地形特性によりゾーニングを行い、「伊勢湾・衣浦湾」「三河湾」「表浜」の3ゾーンで検討を行うこととする。

※台風コースは、愛知県沿岸部に影響があった過去の台風実績コース(約60年間)の中で、伊勢湾台風規模の台風が来襲した場合に最も潮位偏差が高くなるコースとする。

なお、「**減災レベル**」の検討にあたっては、最も影響の大きい台風実績コースを平行移動し、最悪となるコース(最悪コース)について検討する。

※計算潮位については、中長期的整備レベルの検討を行うため、地球温暖化に伴う海面上昇についても考慮する。

[IPCC第4次報告におけるA1F1シナリオ(高度経済成長が継続、化石エネルギー重視)を想定]

※海面上昇は、主な海岸保全施設の構造となっているコンクリート構造物の耐用年数である概ね50年後と概ね100年後を想定する。

【用語説明】・IPCC [気候変動に関する政府間パネル(英語: Intergovernmental Panel on Climate Change、略称: IPCC)]

： 国際的な専門家で作る地球温暖化についての科学的な研究の収集・整理のための政府間機構

### ＜伊勢湾台風時の最大潮位及び潮位偏差＞

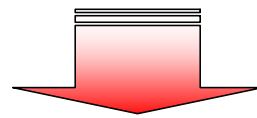
	最大潮位	潮位偏差
名古屋港	T.P +3.89m	3.55m
豊橋(前芝)	T.P +3.04m	2.74m

※伊勢湾台風災害復興誌(昭和39年10月愛知県)

※ 第2回 愛知県沿岸部における津波・高潮対策検討会の開催結果について 添付資料:高潮浸水予測の想定シナリオ

### 減災レベル（室戸台風級）の台風コースの検討

減災レベル（室戸台風級）の推算にあたっては、台風コースを国土交通省が検討したスーパー伊勢湾台風の検討方法に準じて、最悪のコースについて検討

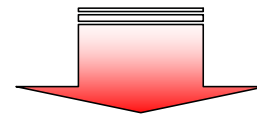


実績コースに対して

- ① 経度方向への「平行移動」
- ② 「回転」（上陸地点を回転の中心とする）

各エリアで設定した台風実績コースを経度方向に平行移動、回転させて検討した結果、実績コースが最大規模となった。

\* 台風コースを平行移動や回転させたコースの時、潮位偏差が最大となる場合もあるが、基本コースとの差は数センチと微小



**減災レベル（室戸台風級）の台風コースを実績コースとする。**

→ 防護レベルと減災レベルで台風コースは共通（台風規模による影響の差が明確となる）

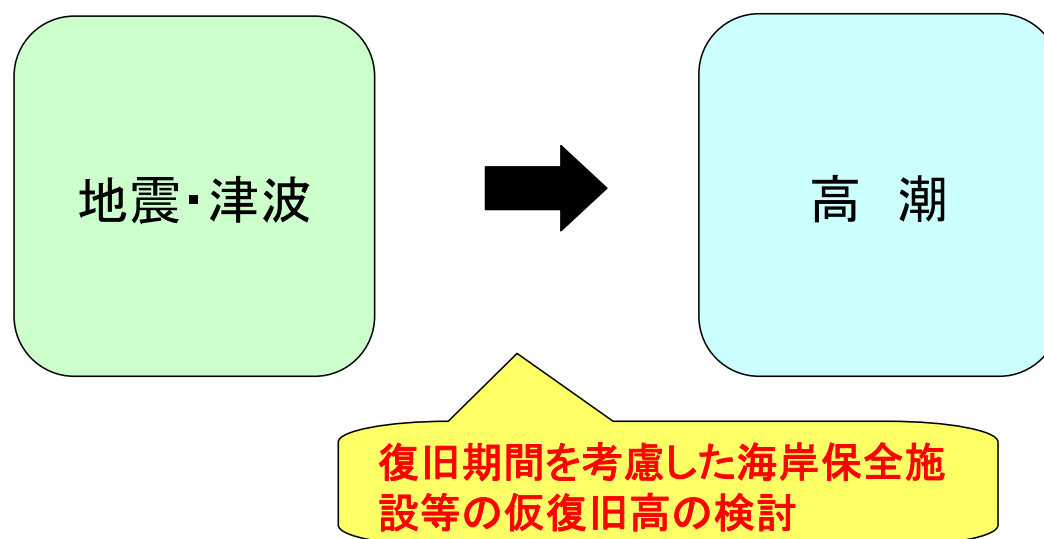


## 5. 複合災害のシナリオ設定

本検討会で想定する複合災害のシナリオについては、「地震・津波」による被災後に「高潮」が発生するシナリオを想定

第2回 検討会資料

〈想定する複合災害のケース〉



大規模な地震・津波が発生した場合、地盤の沈下や液状化により海岸保全施設等が壊滅的な被害を受ける可能性があることから、「早期復旧」や「二次被害防止」が重要となる。

よって、**海岸管理者としては、施設を完全に復旧するまでに要する期間を踏まえ、その期間に発生する可能性がある高潮に対して、海岸保全施設等の仮復旧高について検討する。**